

◇まえがき◇

## 機器分析センターの一年

機器分析センター長 飯石一明

平成4年4月に待望の機器分析センターが設置されて一年が経過しました。現在は、理学部に10室を間借りした状態で、全学の施設としては極めて不十分な状態ですが、建物新営の概算要求実現を目指して努力しています。ここにこの一年を振り返り機器分析センター報告第1号をお届けします。

4月10日にセンター長の発令を受け、「機器分析センター」設置計画作成の中心的役割を果たされた理学部の増山教授から申し送り事項をお聞きしました。設置準備委員会の膨大な資料を拝見して、それまでに御尽力された諸先生及び事務職員の方々の並々ならぬ御苦労に頭の下がる思いが致しましたと同時に、これまでの皆様方の御努力に報いるために、なんとしても多くの利用者に喜んで利用して戴けるセンター作りに励まなければならないと思いました。

5月27日には建物新営の概算要求のための学長ヒアリングがありました。日程の都合で運営委員の増山教授に出席して戴きました。平成4年度までに山口大学を含めて17大学に機器分析センターが設置され、9大学で建物が完成しています。昭和60年までは設置年度から2～3年後に建物が完成したことが多いようですが、最近5年間は建物の概算が認められていません。どのような事情によるものかわかりませんが、皆さんの御協力のもと、大いに実績を挙げて一日も早く建物新営の概算要求が認められるよう努力したいと思いますのでどうぞ宜しくお願い致します。

8月3日には機器分析センターの仮室（理学部内）に三分一学長、三戸理学部長、萱沼

事務局長ともに門標を掲げ、センターの門出を祝いました。

10月20日に機器分析センター概要を作成し、センターの事業概要、構成、利用手引、関係規則および関係委員会の紹介をしています。概要の“まえがき”にも述べましたように、このセンターの大きな役割の一つは学部、学科にまたがる協力体制を確保することにあると思います。この概要を参考に、気軽にセンター事務室に電話をされまして機器の利用についてお尋ね戴きたいと思っています。なお、この概要は学内の教官全員（812名）と全国の理系学部（31大学）及び機器分析センター（16大学）に配布しました。また、10月22日に開催された山口県技術情報連絡会議においても産官学の皆様方に50部配布し、センターの紹介を致しました。

本年度のビッグニュースは、理学部から要求していた特別設備の“電子プローブマイクロアナライザー（9000万円）”が認められ、平成5年3月末にセンターに設置されることです。本報告書の表紙に装置の概観を示し、装置の説明をしていますので参考に戴ければ幸いです。近いうちに、この装置に関する講習会を予定しています。多くの方にご参加戴き、この装置を利用した研究に役立てて戴きたいと念じています。

本センターに設置することを前提にして要求されている大型機器は、最新鋭の4軸型X線回折装置、電子顕微鏡、分析電頭、NMR、蛍光X線分析装置など沢山あります。これらの装置導入のために、今後とも学内各位の御支援、ご鞭撻を切にお願い致します。私どもセンター関係者は分析サービス態勢の整備を行ない大いにご利用いただけるようにつとめねばなりません。利用者の皆様からも本センターの運営サービスについて、きたんのないご意見をお寄せ下さいますようお願いする次第です。